

プレス発表資料(お知らせ)

平成19年9月21日
独立行政法人 防災科学技術研究所

Xバンド気象レーダネットワークに関する国際シンポジウム

- 豪雨・突風への挑戦 -

独立行政法人 防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、名古屋大学地球水循環研究センター、米国 CASA/NSF と共催で「Xバンド気象レーダネットワークに関する国際シンポジウム - 豪雨・突風への挑戦 - 」を下記の通り開催いたします。

1. 日 時 平成19年10月5日（金） 09:30～17:40
2. 開催場所 防災科学技術研究所 研究交流棟 和達記念ホール
（〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1）
3. 主催 (独) 防災科学技術研究所
4. 共催 名古屋大学地球水循環研究センター、米国 CASA/NSF
5. 後援 防災研究フォーラム
6. プログラム 別紙のとおり
7. 定員 150名（申し込み順）
8. 参加申込 <http://www2.bosai.go.jp/x/>
上記ホームページより9月30日までにお申込みください（先着順）。
9. 参加費 無料（ただし、懇親会は参加費3,000円）
10. その他 同時通訳あり

* 本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会

（内容に関するお問い合わせ）

独立行政法人防災科学技術研究所
水・土砂防災研究部 三隅
電話：029-863-7766
FAX：029-863-7760

（連絡先）

独立行政法人防災科学技術研究所
企画部広報普及課成果普及係 佐竹、山科
電話：029-863-7783
FAX：029-851-1622

Xバンド気象レーダネットワークに関する国際シンポジウム

- 豪雨・突風への挑戦 -

(主催) 防災科学技術研究所
(共催) 名古屋大学地球水循環研究センター、米国 CASA/NSF
(後援) 防災研究フォーラム

日時: 2007年10月5日(金) 09:30 - 17:40
場所: 防災科学技術研究所 研究交流棟 和達記念ホール
(茨城県つくば市天王台3-1)

開催主旨

Xバンド(3センチ波)のレーダは、小型化できるために設置が容易で低価格であるという利点を持ち、規模の小さい大気現象を観測するのに適しています。また高速度の通信網や安価な計算機システムが利用できるようになったことから複数台のレーダをネットワークで結び、リアルタイムで観測データを処理することも可能になってきました。これまで降雨減衰の影響が大きいため、短い波長のレーダは豪雨の観測には向かないとも言われてきましたが、マルチパラメータレーダの開発によりその評価も変わってきています。本シンポジウムでは、豪雨・突風への挑戦と題して、第一線で活躍されている国内外の研究者に気象レーダによる豪雨・突風の研究の最前線について講演していただきます。

プログラム

09:00 - 受付
09:30 - 09:45 開会挨拶
岡田義光(防災科学技術研究所理事長)
Vilas Mujumdar (NSF Government Officer)
山本進一(名古屋大学研究担当理事、副総長、代読:上田 博)

セッション1(新しいレーダ技術)

09:50 - 10:20 赤枝健治(気象庁観測部観測課): 気象庁の運用するレーダ観測網
10:20 - 10:50 J. Testud (NOVIMET): HYDRIX Radar in FRAMEA – Evaluation of an X band polarimetric radar using a quasi-co located S band radar and a raingauge network –
10:50 - 11:00 (休憩)

11:00 - 11:30 牛尾知雄 (大阪大学大学院工学研究科): 広帯域レーダによる高精度高分解能降雨観測

11:30 - 12:00 V. Chandrasekar (コロラド州立大学): Distributed Collaborative Adaptive System (DCAS) for storm monitoring: The first results from the CASA IP-1 testbed

12:00 - 13:00 (昼食)

セッション2 (気象分野での利用)

13:00 - 13:30 真木雅之 (防災科学技術研究所水・土砂防災研究部): 首都圏Xバンドレーダネットワーク - X-NET -

13:30 - 14:00 小林文明 (防衛大学校): ドップラーレーダで観測された竜巻と突風前線の構造

14:00 - 14:30 M. Biggerstaff (オクラホマ大学): Overview of the Mobile Doppler Weather Radar Program at the National Weather Center

14:30 - 15:00 上田 博 (名古屋大学地球水循環研究センター): マルチパラメータレーダー観測が拓く東アジアにおける豪雨・突風の新しい研究

15:00 - 15:20 (休憩)

セッション3 (水文分野での利用)

15:20 - 15:50 E. N. Anagnostou (コネチカット州立大学): Experimental results on rainfall and DSD estimation with a mobile X-band Polarimetric Radar

15:50 - 16:20 中北英一 (京都大学防災研究所): レーダを用いた降雨予測

16:20 - 16:50 高崎忠勝 (東京都土木技術研究センター): 東京の都市中小河川と洪水被害 - 神田川の事例 -

16:50 - 17:20 山田 正 (中央大学理工学部): ドップラーレーダ画像を用いた、関東平野における降雨の発生機構と分類の研究

17:20 - 17:40 総合討論

17:40 - 閉会挨拶
小中元秀 (防災科学技術研究所理事)

19:00 - 懇親会 (山水亭レセプションホール、つくば; 会費 3,000 円)
特別講演 B. Philips (CASA): Users, Impacts and Radar Networks: The CASA Experience in Designing an End-to-End System

以上